

平成 25 年 3 月 22 日
農林中央金庫

中期経営計画について

農林中央金庫(理事長 河野 良雄, 以下「金庫」)は, 平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 年間を計画期間とする中期経営計画を策定しましたので, お知らせいたします。

金庫は, 中期経営計画において, 「新たなステージへの挑戦」を掲げ, 更なる収益力・組織力の強化を図ることにより, 我が国の成長産業と期待されている農林水産業の成長実現や被災地復興を含めた地域の持続的発展, ならびに人材育成をはじめとする系統信用事業(JAバンク・JFマリンバンク)の将来的な強化に資する取組みに率先して挑戦し, 「農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク」の実現に向けて邁進してまいります。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 広報企画室(野田, 内田)

TEL 03-5222-2017

中期経営計画（平成25-27年度）

～新たなステージへの挑戦～

平成25年3月
農林中央金庫

90th anniversary

Forward **100**th

目次

I はじめに

II 100周年に向けた将来像と中期経営計画の基本コンセプト

III 中期経営計画の「4つの取組方針」

IV 中期経営計画の戦略的取組事項

- 1 農林水産業と食の発展や地域の活性化に貢献する新たな取組みへの率先対応
- 2 系統信用事業の維持・拡大に向けた更なる取組みの企画・実践
- 3 適切なリスク管理の下での収益力の強化
- 4 経営資源の戦略的な活用・増強による組織力の強化

I はじめに

当金庫は、平成20年の金融市場の混乱を受けて、平成21年春に会員の皆様に大規模な増資をお願いし、以来、経営安定化計画（平成21・22年度）とそれに続く中期経営計画（平成23・24年度）に取り組んでまいりました。

この間、会員の皆様をはじめとする関係各位のご理解・ご協力により、農林水産業系統組織の一員として、会員および農林水産業への貢献を第一に、安定的な還元と協同組織中央機関としての機能発揮に取り組むとともに、この2年間は東日本大震災からの復興対応にも注力してまいりました。

会員および農林水産業を巡る先行きの経営環境は極めて厳しい状況にあります。地方経済の疲弊、組合員の高齢化等による組織基盤の変容といった構造的な問題に加えて、金融規制の強化の動き等、将来の系統信用事業のあり方に大きな影響を与える課題が山積しています。

このような厳しい環境認識の下、今回の中期経営計画（平成25～27年度）においては、「**新たなステージへの挑戦**」を掲げ、**更なる収益力・組織力の強化を図ることにより、会員への安定的な還元を継続しつつ、農林水産業や被災地復興を含めた地域の持続的発展、ならびに人材育成をはじめとする系統信用事業の将来的な強化に資する取組みに率先して挑戦してまいります。**

また、金庫役職員ひとりひとりが、農林水産業系統組織の一員としての意識を強く持ち、会員の皆様との対話を通じた業務運営に邁進いたします。

当金庫は平成25年12月に創立90周年を迎えます。来るべき100周年に向け、将来のあるべき姿を描き、引き続き、我が国の成長産業と位置づけられている農林水産業の成長実現に向けて、組織を挙げて取り組んでまいり所存ですので、会員の皆様をはじめとする関係各位のご理解・ご協力をお願いいたします。

Ⅱ 100周年に向けた将来像と中期経営計画の基本コンセプト

【100周年に向けた将来像】

農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク

【4つの目指す姿】

- 1 農林水産業と地域の持続的な発展に向けて金融ソリューションを提供する農林中央金庫
- 2 絆でつながるネットワーク型金融を構築する農林中央金庫
- 3 農林水産業と食と地域を支えるため国内外の金融市場で存在感を発揮する農林中央金庫
- 4 変化を恐れずに挑戦するプロフェッショナル集団たる農林中央金庫

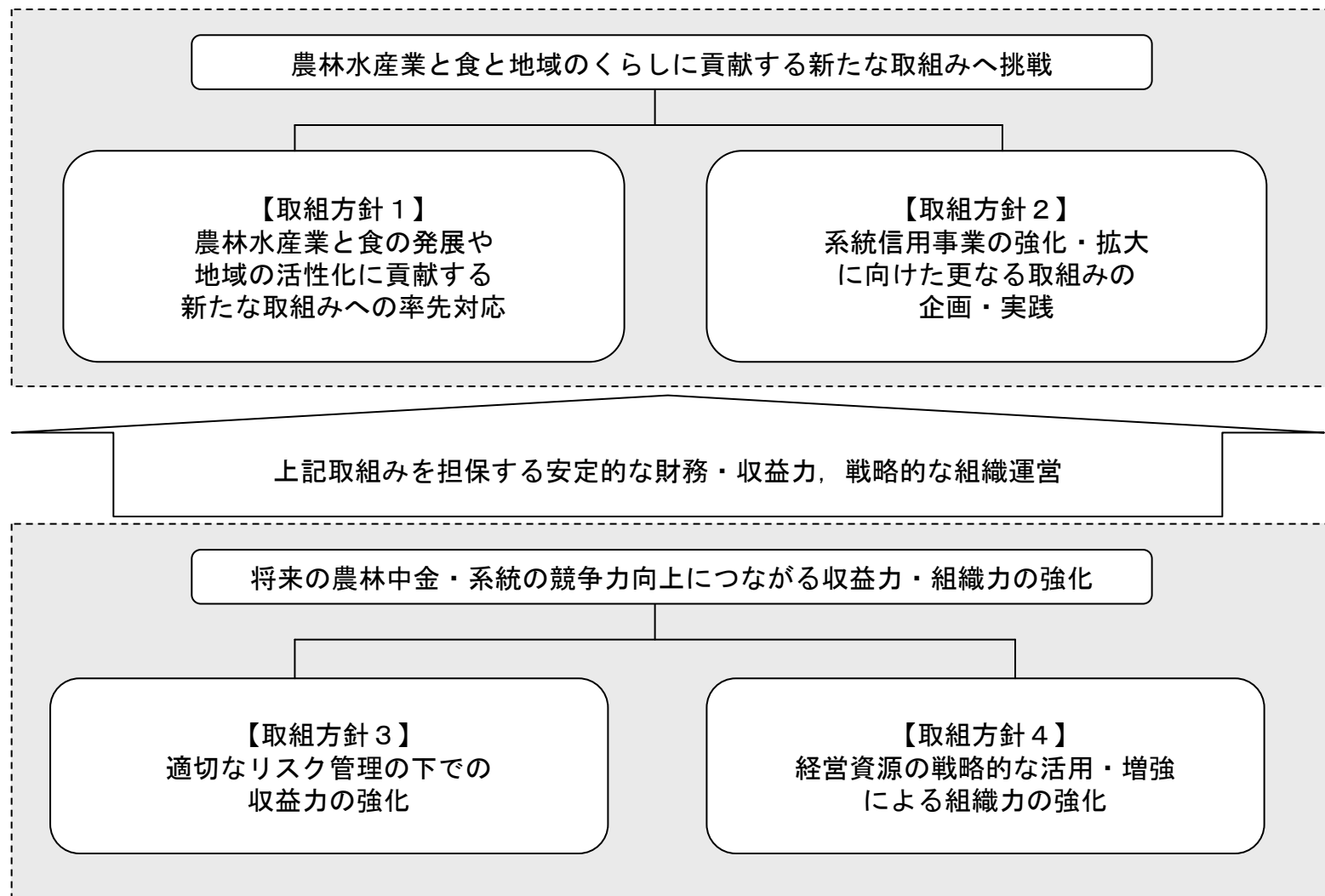
中期経営計画（平成25～27年度）は「目指す姿」を決定付ける期間と位置づけ

【中期経営計画の基本コンセプト】

農林水産業と食と地域のくらし
に貢献する新たな取組みへ挑戦

将来の農林中金・系統の競争力向上に
つながる収益力・組織力の強化

Ⅲ 中期経営計画の「4つの取組方針」



Ⅳ 中期経営計画の戦略的取組事項

1 農林水産業と食の発展や地域の活性化に貢献する新たな取組みへの率先対応

(1) 農林水産業を軸にした被災地復興への継続的取組み

- 被災地の会員および農林水産業の担い手等を支援するため、全中・全農・全漁連・全森連や被災地の行政等と連携し、「復興支援プログラム」の着実な実践等に継続的に取組みます。
- 特に被災地会員等にとって復興後の事業基盤確保に資するものとするため、同プログラムの実践にあたっては、非金融支援を含めて多面的に取組みます。
- 被災により資本注入支援を受けた組合に対しては、信用事業強化計画等の着実な遂行およびその達成に向けて、人材派遣を含めた支援を継続します。

(2) 農林水産業の持続的発展を支える担い手への対応力強化

- 農業の持続的発展を支える担い手への対応力を強化するため、ＪＡ・信農連とともに、特に事業規模の拡大を図る農業者等を中心に、これまで以上に踏み込んで、金融ツールの拡充を図るほか、経営相談機能等の充実に努めます。
- 水産業の持続的発展を支える担い手の多様なニーズに応えるため、ＪＦ・信漁連とともに、金融機能の維持・強化に努めます。
- 森林資源の適切な管理とその利活用に貢献するため、担い手である森林組合とともに、経営態勢の一層の強化や森林整備の高度化等に向けた取組みを進めます。

（３）農林水産業の収益力強化に向けた取組み

- 系統団体・農林水産業者による６次産業化や農林水産物輸出をはじめとする収益力強化に向けた取組みをサポートするため、金融ツールの充実のみならず、ビジネスマッチング等の非金融面でのソリューション提案力を強化します。

（４）農林水産業を軸にした地域活性化の新たな取組み

- 農林水産業を軸にした地域活性化に自主的に取組む地域の皆様を支えるため、再生可能エネルギーをはじめとする地域活性化の取組みに関し、系統全国連としての機能発揮に努めます。

（５）農林水産業・系統信用事業の発展に資する法人営業取引先との連携強化

- 法人営業取引先との連携強化により、農林水産業や系統信用事業の発展に貢献します。

2 系統信用事業の強化・拡大に向けた更なる取組みの企画・実践

(1) 利用者基盤の再構築・拡充に資する施策企画と展開

- 系統信用事業の利用者基盤の再構築・拡充のため、利用者視点のサービス提供が徹底される施策の企画と展開に努めます。
- 利用者視点のサービス提供が徹底される事業運営態勢の変革に向け、組織風土・職員意識改革、営業態勢構築・強化に資する施策の企画と展開に努めます。

(2) 経営管理態勢、経営基盤の強化に向けた更なる枠組み構築

- J Aバンクにおける、事務堅確性の向上に向けた取組みや不祥事未然防止の取組みを進めるほか、経営基盤の強化に資する財務の一層の健全化にかかる施策の企画・展開を進めます。
- J Fマリンバンク基本方針に基づく10年間の取組みを総括し、J Fマリンバンクの安定・強化に資する所要の見直しを行います。
- 県域等におけるJ Fマリンバンクの運営体制の整備およびJ F・信漁連の経営の健全化を促進します。
- 系統信用事業の業務継続態勢の強化に向けた取組みを進めます。

(3) 事業戦略の実践を支える業務インフラの構築・運営

- 系統信用事業の競争力の維持・向上の観点から、業務インフラである系統事務およびJ A S T E Mシステム等のI Tシステムについて、品質の維持・向上を図りつつ、安定的かつ効率的な運営に努めます。
- 中長期的なJ Aバンクの競争力の維持・向上の観点から、J A S T E M新システムの構築・移行に向けた取組みを着実に遂行します。

（４）事業戦略を実現する系統人材育成の取組み強化

- 系統信用事業の持続的発展に向け、「変革リーダー」となる人材や他業態との競争に打ち勝つマネジメント力・現場力を備えた人材の安定的・持続的な育成に努めます。

（５）全国連間の連携強化に向けた取組み

- 利用者視点に立ち、系統組織の総合事業体としての強みを発揮するため、他の全国連との連携強化に向けた検討を進めます。

（６）地域金融機関としての将来的なあり方の検討

- 組合員の高齢化等の系統信用事業を巡る環境変化を踏まえ、地域金融機関としての将来的なあり方を検討します。

3 適切なリスク管理の下での収益力の強化

(1) 機動的・戦略的なアセットアロケーション運営と安定的な資金調達による強固な収益基盤の確保

- 安定的な収益基盤を確固たるものとするため、市場環境等に対応した機動的なアセットアロケーション運営および投資ノウハウの高度化・蓄積に注力するとともに、資金調達の一層の安定化に努めます。

(2) 収益力の強化に向けた新たな投資機会の追求

- 一層の収益力強化に向けて、市場環境等を睨みつつ、選別的に、新たな良質な投資機会を追求します。

(3) 法人営業の強化に向けた継続的取組み

- 「グローバル化」する企業や「食」に貢献する企業を核とした法人営業取引先のニーズに対し、提案力を発揮することにより、法人営業資産の積上げを図ります。

(4) 競争力強化に寄与するリスク管理の実践

- 経営の競争力強化につながる取組みとして、金庫の事業特性等を踏まえた有効な牽制機能の発揮を通じ、フォワードルッキングなリスク管理等の枠組み構築と運営に努めます。

4 経営資源の戦略的な活用・増強による組織力の強化

(1) 金庫・系統を担う「人財」形成への注力

- 中長期的に、国内でリテール基盤を有し、海外において存在感のある金融グループとして確固たる地位を確立するため、金庫・系統全体を視野に入れ、組織の将来を担う「人財」形成に戦略的に取組みます。

(2) 市場環境等を踏まえた適切な財務運営

- 中計期間（3年間）における経常利益の目標水準は1,000億円前後とし、適切な財務運営を行います。
- 引き続き、財務基盤の強化に努めるとともに、グローバルに事業展開する金融機関として相応しい自己資本の水準を維持します。
- 中計期間（3年間）における財務運営については、市場環境やバーゼルⅢをはじめとする金融規制見直しの動向等を睨みつつ、経営競争力の維持の観点から、必要に応じて見直しを行います。

(3) 経営資源の適切な配分

- 引き続き、業務の合理化・効率化に努める一方、金庫・系統の競争力の維持・向上に資する取組みについては、積極的に経営資源を投入します。

（４）金庫・系統を担う業務インフラの整備

- 金庫および系統信用事業の業務インフラ（事務・システム）の安定的かつ効率的な提供に努めるとともに、インフラコストの適正化に取り組めます。

（５）金庫・系統のコンプライアンス・経営管理態勢の強化

- 国内でリテール基盤を有し、海外において存在感のある金融機関として相応しいコンプライアンス・経営管理態勢の強化を図ります。

【中期経営計画（平成 25～27 年度）の概要】

100 周年（平成 35 年度）に向けた将来像

農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク

「将来像」を決定付ける中期経営計画

中期経営計画

基本コンセプト（経営方針） ～新たなステージへの挑戦～

農林水産業と食と地域のくらし
に貢献する新たな取組みへ挑戦

将来の農林中金・系統組織の
競争力向上につながる
収益力・組織力の強化

4 つの取組方針と主な戦略的取組領域

農林水産業と食の発展や
地域の活性化に貢献する
新たな取組みへの率先対応

- 被災地復興への継続的取組み
- 担い手への対応力強化・農林水産業の収益力強化
- 地域活性化に貢献する新たな取組み

系統信用事業の強化・拡大
に向けた更なる取組みの
企画・実践

- 利用者基盤の再構築・拡充に資する取組み
- 経営管理態勢の強化，業務インフラの構築・運営
- 事業戦略を実現する系統人材育成の取組み

適切なリスク管理の下での
収益力の強化

- 機動的・戦略的アセットアロケーション
- 法人営業強化，新たな投資機会の追求
- 競争力強化に寄与するリスク管理の実践

経営資源の戦略的な活用・
増強による組織力の強化

- 将来の金庫・系統を担う「人財」形成への注力
- 適切な財務運営（経常利益目標水準：1,000 億円前後）
- 競争力向上に向けた積極的な経営資源の投入